

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 助教

氏名 志賀崇徳

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

実習において、病理学の講義で学んだ病変や疾患を実習組織標本観察や病理解剖で経験させることで、獣医学における重要な疾患を総合的に理解できるような教育を行う。研究室では、卒業論文の作成を指導し、研究計画の立案、実験遂行、データ解析を通して、科学的思考力を培い、成果を他者にわかりやすく発表する能力を伸ばせるように指導する。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医病理学実習Ⅰ	獣医学科	必修	4	134
獣医病理学実習Ⅱ	獣医学科	必修	4	132
獣医病理学総論	獣医学科	必修	3	150
総合獣医学	獣医学科	必修	6	163
卒業論文	獣医学科	必修	6	6

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

獣医師には、動物疾病の診断と治療、動物生産、公衆衛生、医薬品の開発、生命科学研究など、様々な背景や役割が存在する。したがって、様々な立場の獣医師が高度な専門知識を共有し、大学で培った科学的思考力を活かして、経験したことのない問題にも果敢に取り組むことが望まれる。

実習では、獣医師として必要な獣医病理学の知識・技術を持つことに加え、それを応用して自ら考え診断する実践能力を持った獣医師を養成することを理念とする。

研究室では、症例の病理診断や卒業論文研究を通じて、研究計画の立案、計画的な遂行、データの解析、考察を主体的に行う能力を持った人材を養成することを理念とする。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

実習では、豚、鶏の病理解剖を少人数で班ごとに実施する機会を設け、その病理検査、病原体検査の結果を授業内で解説する。肉眼所見、組織所見、病原体検査結果を関連づけて学ぶことで、獣医学における重要な疾患を総合的に理解することを目標としている。病理組織標本の観察では、スケッチと写真を組み合わせることにより、診断のポイントとなる所見を抜き出し、説明できるようになることを目標としている。

研究室では、卒業論文の実験計画や結果について自らの考えを説明する機会を設け、教員や他学生とのディスカッション、進捗報告、学会発表を通じて、科学的思考力、プレゼンテーション能力を養うことを目標としている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

実習では、豚、鶏の病理解剖を少人数で班ごとに実施し、後日解剖した個体の病理組織標本を班ごとに観察することで、産業動物疾病の病理診断を実際に経験する機会を設けた。

(2) ICTの教育活用

有

実習では、病理組織標本のバーチャルスライドを疾病解説に利用した。また、学理を用いてオンデマンド型の動画配信を実施し、予習、復習のため、常時動画ファイルを視聴できるようにした。授業の理解度を把握するため、Googleフォームを用いて小テストを毎週実施した。さらに、病理解剖のVR撮影を実施して、教育コンテンツの充実をはかった。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

犬、猫の病理解剖は検体数が少ないため、これまでの実習ではほとんど実施できず、大学基準協会による獣医学教育評価においてもこの点を指摘されていた。2023年度は、犬、猫の病理解剖のストーリーミング動画教材、360度動画コンテンツを作製し、獣医病理学実習を受講した4年次学生に供覧した。2024年度は鶏、豚の病理解剖の動画教材を新たに作成し、更新した。

(2) 学生の理解度の把握

A

理解度を把握するため、毎回の講義で小テストを実施している。正解率の低い問題について次回講義時に解説した。2023年度は、実習後期の最終回に鏡検試験を実施し、病理組織所見の理解度を把握した。2024年度は、鏡検試験の回数を増やし、前期、後期各2回ずつ、病理組織所見の理解度を把握した。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

講義資料をできるだけ早く掲示し、自学自習のための動画ファイル教材を提供した。これらは復習用に常時閲覧可能とした。2022年度前期の学生授業評価では、「予習動画が事前にあって予習がしやすかった」、「動画が見返せるのが良かった」、「時間外学習ができた」など、良い評価を受けた。2023、2024年度も上述の取り組みを継続した。

（４）学生とのコミュニケーション

A

実習中に、教員、ティーティングアシスタントが教室内を巡回し声をかけることで、質問しやすい環境を整備した。2022年度前期の学生授業評価では、「先生に質問しやすく、疑問をすぐ解決できた」、「先生が気持ちよく疑問に答えてくれるので、質問のハードルが低くありがたかったし、勉強になった」など、良い評価を受けた。2023、2024年度も上述の取り組みを継続した。

（５）双方向授業への工夫

A

質問だけでなく、実習への要望など、学生が積極的に発言できる環境を整備している。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

実習では、授業内に観察する標本の疾病に関連する国家試験の問題を紹介し、その疾病に関する知識の重要性を強調した。2023,2024年度は、総合獣医学の病理学総論を担当し、病理総論範囲の出題傾向の解析とそれに基づく勉強法について学生に指導した。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）授業評価アンケート結果の授業への反映

2023年度の授業評価では、一部の実習組織標本が染色の経年劣化により、観察しづらいとの意見があった。2024年度は特に重要な疾患の実習組織標本を再染色した。

（２）（１）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

再染色した実習組織標本については、観察やスケッチがしやすいと、良い評価を受けた。その他の実習組織標本についても再染色してほしいとの要望があった。

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

次年度の実習に向けて、さらに、実習組織標本の再作成、再染色を実施している。また、疾病解説に利用する病理組織標本のバーチャルスライドの充実をはかる予定である。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

2024年度は病理解剖の動画教材の作成に特に力を入れて取り組んだ。今後は基本的な病理解剖手技の動画に加えて、様々な動物種、様々な疾患の解剖動画を作成してコンテンツの充実化をはかりたい。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

2024年度の授業評価アンケートでは、「視覚的な資料が非常に勉強の参考になりました」、「鶏解剖実習の映像資料がとてもわかりやすかった」、「鶏実習の事前動画がわかりやすく、解剖をスムーズに行うことができた」などの好評価が得られた。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

可能な限り研修に参加した。

参加できない場合は動画を後日視聴した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

短期的には、実習において学生の授業理解度を高めるように努めたい。

長期的には、専門家としての実践能力を持つ人材を育成するため、病理解剖実習の改善に貢献したい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

- ・ シラバス
- ・ 2022年度麻布大学教育改善プログラム
- ・ 授業評価